

# 審議会等議事概要

平成30年度 第1回 滝川市予防接種対策協議会 議事概要

日 時	平成30年6月7日（木曜日）午後6時00分～午後6時40分
開催場所	滝川市保健センター
出席者	出 席：藤原委員長、永井副委員長、磯副委員長、文屋委員、堤委員、男澤委員、 武田委員、鈴木委員、平木委員 欠 席：山本委員、道鎮委員 事務局：国嶋保健福祉部長、森健康づくり課長、運上係長、森主査
議 事	<p>1. 開会 森健康づくり課長挨拶</p> <p>2. 挨拶 保健福祉部国嶋部長挨拶</p> <p>3. 委員長、副委員長選出 委員長、藤原先生、副委員長、永井先生、磯先生選出</p> <p>4. 委員長挨拶 藤原委員長挨拶</p> <p>5. 報告事項</p> <p>(1) 予防接種業務の変遷について。 事務局) 平成18年からMRワクチンの接種回数が増えた時期からの詳細を載せている。(資料3ページ)平成28年4月、日本脳炎ワクチンの定期接種が北海道で始まり、10月からB型肝炎ワクチンの定期接種が開始となったが、それ以降は新規の定期接種の追加はない。</p> <p>(2) 平成29年度予防接種に関連した対応について。 事務局) 滝川市の予防接種関連の対応について 《日本脳炎ワクチン接種》 特例対象など複雑なものなので、広報・ホームページの他に①から⑤の対象者に個別通知を行った。(資料4ページ)</p> <p>① 定期接種の3歳は、3歳児健診の案内と一緒に接種案内と予診票を送付した。</p> <p>② 特例9歳は、定期予防接種1期2期を9歳以上13歳未満の間に定期接種を受けることになる。9歳の誕生月の次月に対象者へ案内ハガキを送付した。</p> <p>③ 特例10歳は、定期接種の開始年齢は6歳、7歳で、7歳半までに1期</p>

定期接種を終了させ、9歳から13歳未満の間に定期接種を受けることになるため案内ハガキを送付した。

④特例18歳は、20歳未満の間に定期接種を受けることになるため封書で予診票と同意書を送付した。

⑤特例18歳以下は①から④に該当する兄弟姉妹のいる子の親からの問い合わせもあることから、全ての年齢（11歳以上から17歳）に案内ハガキを送付した。

《警報関係》

感染症の警報・注意報は資料を参照する。（資料4ページ）

《その他》

①平成29年10月のこどもクリニック閉院に伴う対応

こどもクリニック閉院に伴い、予防接種の委託先の拡大のため平成29年8月に定期予防接種委託業務意向調査を医師会で実施した。結果は、男澤医院が日本脳炎を小学生以下に拡大、二種混合を追加、どうちん内科消化器科は、日本脳炎を中学生に拡大、おおい内科循環器クリニック、文屋内科消化器科医院は、新たに日本脳炎を中学生以上で実施することになった。

②子宮頸がんワクチンの接種

29年度の定期接種は1件だった。また、副反応等の相談は無かった。

(3)未接種者勧奨について。

事務局) 出生後2か月、3か月で実施する四種混合・ヒブ・小児用肺炎球菌・B型肝炎は、出生時に市民課から配布している「たきかわっこファイル」の中に周知書類、問診票を入れている。1か月前後で行う新生児訪問は保健師、助産師が訪問し、予防接種のスケジュールを母親と相談し決めている。4～5か月児相談、9～10か月児相談の来所時に接種状況の確認と今後の接種スケジュールを確認している。BCGは、5か月から1歳までの接種になるので、9～10か月にて接種状況を確認し、未接種の場合は再勧奨している。

水痘・MR1期は、1歳6か月健診で接種状況を確認し接種勧奨している。水痘は3歳まで接種可能なので、2歳児相談でも確認し再勧奨を行っている。

MR2期は、年度末に新年度4月からの対象者に個別案内を行っている。その後、夏休み前、10月の就学児健診の案内の時、冬休み前、春休み前に未接種者に対しては、再勧奨ハガキを出している。

日本脳炎は、10月の就学児健診の案内文書に、MR2期と共に接種確認のチラシを入れている。

二種混合は小学6年生が対象で、年度初めに個別案内、夏休み前、冬休み前、春休み前に未接種者に対し勧奨ハガキを送付している。

委員長) 質問・意見等はないか。

委員) 特になし。

(4)平成 29 年度予防接種実績について。

事務局)①麻しん風しん混合(MR)

29 年度の接種率は、第 1 期 91.6%、第 2 期 92.2%。27 年度の接種率が高かったがそれに比べると若干下がっている。全国的には 95%を達成しているが、当市は 91.6%だった。2 期は全国平均 92.9%で、ほぼ同じ様な接種率だった。1 期の接種率が低かった理由は、1 歳までの予防接種は受けているが、1 歳半の勧奨後に忘れてしまった方が若干名いるようである。また、予防接種を子どもに受けさせたくないとのポリシーを持った方もいる。要保護家庭の母親に精神疾患があるなど、家庭の事情で個別的な支援をしなくてはいけない家庭やネグレクトの家庭で、乳幼児健診も未受診の子がいる。個別に勧奨を繰り返しているが、その方々が未受診者に含まれている。

②不活化ポリオワクチンは、四種混合に移行しているので、29 年度は接種者合計は 21 名だった。

③四種混合は、29 年度接種率は 98.9%と上がっている。

④二種混合は、29 年度接種率は 92%だった。

⑤BCG は、29 年度接種率は 97.6%だった。

⑥ヒブワクチンは、29 年度接種率 99.2%だった。

⑦小児用肺炎球菌ワクチンは、29 年度接種率 99.2%だった。

接種率の出し方は、ヒブワクチン・小児肺炎球菌については決まった接種率の出し方がなく、0 歳で 1 回目の接種した人数を分子にして、その年の出生数を分母にして出している、四種混合については、毎年道に提出している 3~12 か月未満に 1 期初回の 3 回を終了した子の報告を上げていて、それにならい初回の 3 回を 1 歳未満の間に終了している子を分子にして、その年に出生した 3 回終了した子は生後 6 ヶ月過ぎているので、現在滝川市に住民票のある 5 ヶ月以降の 0 歳児の数を分母にして出している。

⑧子宮頸がんワクチンは、29 年度は中学 3 年生で 1 名だった。

⑨水痘ワクチンは、接種率 91.6%で今までの最高の接種率となった。MR と同じ接種率で、同時接種の方が増えていることが考えられる。

⑩B 型肝炎は、29 年度 98.8%、28 年度が 10 月開始で接種期間が半年間だったため、29 年度は接種率が上がったと考えている。

⑪高齢者肺炎球菌は、接種率は、65 歳 34.7%、70 歳 45.3%だった。各年代、28 年度に比べると 65 歳の接種率が下がっているが、他の年代は上がっている。全体平均の接種率が 38.9%、27 年度が一番高く 39%、昨年よりは上がっている。接種対象は、平成 31 年度で特例措置が終了し 65 歳だけが対象となる予定だが、対象年齢について厚労省で検討していると聞いている。

⑫高齢者インフルエンザは、接種率は平成 29 年度 39.2%、平成 28 年度 42%だった。平成 27 年度 40.7%で若干下がっているが、ワクチンが 4 価に増えて、ワクチン価格が上がった年度である。平成 29 年度が低いのは、ワクチン不足で、接種期間を 11 月～12 月までを 1 月末まで延長したが、12 月のワクチン不足が影響し接種者が減ったのではと考えている。

⑬日本脳炎は、年齢別接種人数は、0 歳から 19 歳まで（資料 10 ページ）の接種当時の年齢としている。接種率の数字と変わっているのは定期予防接種の 3 歳児は、第 1 回に接種した 171 名を分子にし、その年代の出生数 281 名を分母にし出している。接種率は 60.9%で大きく下がってしまった。理由は不明である。推測している事では、昨年は初年度であった事で、親の関心があったのではないか。29 年度対象の子供には出生時、乳幼児健診の中で、日本脳炎に触れていない年代である。周知が不十分だった。

3 歳児健診の案内と一緒に送付している。3 歳 1 ヶ月で 3 歳児健診を受けた時に、健診の中で接種した方が少なく、日本脳炎のワクチンの説明をするようにしている。その後の勧奨が、就学児健診になる。3 歳から 5 歳まで接種しているかの確認が出来ていない状況で、今後の課題である。これから検討していきたい。個別通知を実施した年代別の接種率について。接種率の決まった出し方はない。全国、全道と比較する数字がないため、滝川独自で出している。接種人数を分子とすると対象数算出が難しいため、その年の学年で接種済みの人数を出し直し、学年の出生数から接種している子供を引いた数を分母とし接種率を出している。6 歳 45.5%、9 歳 23.7%、18 歳 39.5%。日本脳炎開始前の情報で、本州の実施状況で 18 歳までの接種率は 1 割 2 割と聞いているので、それに比べると、接種率はよい。全体的にワクチン接種率をみると、1 歳までの接種率はよいが、1 歳以降が落ちる。1 歳 6 ヶ月で周知しているが、その後、母親が働きだし保育園行く子が増えて、予防接種の受診を失念することも考えられる。今後、周知方法も今後の課題とする。

委員長) 子どもクリニックを平成 29 年 9 月末で閉院したことで、接種率の低下を危惧していたが特に問題なく実施されている。皆様のご協力に感謝する。

## 6. 協議事項

(1)平成 30 年度 予防接種事業について。

各種予防接種の案内について（資料 11～12 ページ）

事務局) 各種予防接種は広報に掲載し、高齢者肺炎球菌は、年度初めに対象者にハガキで案内している。

## 7. 情報交換

### (1) 麻しんの流行に伴う状況について

事務局) 沖縄県で麻しんが流行した影響で、滝川市立病院でワクチン不足による接種予約調整を行っていた時期もあったが今は改善している。ワクチンメーカーに確認したが、供給は通常通りに行われている。ワクチン不足はないとの回答だった。麻しんの流行に伴い、相談、要望などがあればお願いします。

委員) 麻しんワクチンは足りているのか。

事務局) 今の所、不足の情報は入っていない。

委員長) 他の委員から意見、情報はありますか。

委員) 沖縄県へ渡航予定がある市民から接種予約の問い合わせがあった。小児の定期接種分は確保したいし、メーカーにも確認したが増産する予定はないと言われたことを説明し接種予約を断ったケースが何件かあった。

委員長) インターネットの医療情報で、一部の地域でワクチンが不足しているとあった。北海道の記載はなかったが足りていると思っていたが実際には足りていなかったということか。いつ頃解決するか情報はありますか。

委員) 一時的な受診希望の増加もあったが、今は落ち着いている。

委員) メーカーより6月中旬に落ち着くのではとの情報もある。

委員) 厚労省から説明はあったのか。

事務局) 厚労省から特に情報、通知は入っていない。メーカーは安定供給しているし、一時的な状況だったと思っている。

委員) メーカーと医療施設で多少ギャップがあったと感じている。

委員長) 平成30年度のMRワクチンの接種率に影響が出るかどうかは分からないが、状況を注視したい。

### (2) その他

委員長) 麻しん以外に予防接種関係の情報はありますか。

事務局) 特に情報は無い。

委員長) 特に無ければ、平成30年度滝川市予防接種対策協議会を終了する。

## 8. 閉会

資料 平成30年度 滝川市予防接種対策協議会議案